

【22_181技術系メルマガ】損切りを小さくするには『行動限界点』を探る

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

今週はバタバタしてなかなかトレードのタイミングと監視が噛み合っていかなかったのですが
昨日は子供らを病院に連れて行っている隙に得意な型を見つけたので朝活トレードをしました。

▼GBPJPY(L) 結果:20pips▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1541939279001419778?s=20&t=CnyUeIlgk2mQN8m9nb33bSQ>

鉄板の『収縮+3波』のセットアップで狙うなら、本来の目線はショート方向

日足高値圏、H4足は邪魔なMA下抜けて今日のマーケットオープンなので

今回のロングエントリーは短期逆張りの視点。

狙いはH1/40-50SMAまでの20-30pipsくらい。M15/20SMA G1から40-50帯の端まで(約20pips)

M5足のMA収縮から、複数のボトムでエントリー。

これは僕の得意パターンではあるのですが、まだ体系化していないタイプのやつです。

～～

さて、トレードにもいろんなやり方がありますが

僕の基本戦略は、目線からセットアップを見て頂くとわかるように

極めてオーソドックスな『押し目買い、戻り売り』を狙います。

しかし、多くの人が難しいと思っているであろう

「どこでプルバックが終わるのか」

これを知りたいですね。

今回は、その点に関して自分の中でどう基準を作って

待ち伏せれば良いのかを一緒に考えてみましょう。

□
■ ポイントは「これ以上ムリ、、、」な場所を探すこと

これ、戦術用語などでは『行動限界点』などとも呼ばれています。

(詳しく知りたい人は クラヴセヴィッツ/戦争論 を読んでみてください)

要は、「これ以上進みすぎると、補給が滞って戦えまへん」

という限界ポイントを指すのですが。。

この考えをトレードに当てはめると

プルバックで目線の逆方向への動きが止まる場所を探す時

「これ以上はもう逆行できねーぞ」

という限界のポイントを目安として決めておき

そこで反転のチャートパターンなり、オシレータのサインを待つわけです。

逆に、目線が否定された場合は

そのポイントにおいてさらに逆行が進むことになるので

建値撤退 / 損切りするなり、見送るなりの判断になります。

この時に意識しておくといいいのは

「自分が、プルバック方向にポジションを持っていたと仮定して

どこで決済しておきたいか？」を

自分の『型』を基準で考えておくことです。

要は、その決済ポイントが利益確定から、新規の逆ポジションの形成に切り替わる(かもしれない)ポイント

であるということなので

これは利確を考える際にも使える考え方ですね。

特にFXの場合、相場参加者には買いの者も売りの者をいる中で

その売買のシーソーが傾いた方向でプライスが伸びていきますから

自分が『逆の立場だった場合』を考える事は理に適っていますよね。

その際気をつけたいのは

あくまでも自分の『型』を基準として考える事。

全くスタイルや手法の違う「他人の立場」を考え始めたらキリがないし

それをやり出すと、自分のエントリー・利確の基準が曖昧になってしまうだけです。

これではまったく意味がありません。

それに関連するツイートを先日もしました。

▼当時のツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1540922519074402305?s=20&t=tkcArkUWLZki6yEIpfKYdg>

自分だったら「もうこのポジションは利確する頃合いになるよね」

という場所に来た時にチャートを監視し始め、型通りのパターンで決まったエントリーをする。

その形ができなければ手を出さなければ良いだけ。

いかに自分に複雑な判断をさせないかを考えることも

楽にトレードをするためのポイントとなりますので

そのためにも自分の『型・基準』を、しっかり時間を掛けて作っていきましょう。